

学 校 便 り

熊本市立託麻南小学校 5月号

PTA 総会の話 おごい教育

徳川家康の幼少時代、こんな話が残されています。

まだ幼名の竹千代と名乗っていたころ、戦国時代の習わしで、人質として今川義元の元に預けられました。

義元は、家臣たちに竹千代に「おごい教育」をしろと命じました。

数日後、「竹千代に、おごい教育をしているか？」と尋ねました。家臣たちは、ここぞとばかり答えました。

「はい、食事は野戦食、朝は日の出ないうちに、たたき起こし、夜遅くまで、休むひまなく鍛えあげています。」

義元の答えは意外でした。「それは違う。今日からは、朝はゆっくり寝させ、食事はぜいたくに海の珍味を与えよ。そして、自由に遊ばせよ。」

家臣たちは、いかぶり「それはおごい教育どころか、甘やかす育て方ではありませんか。」とたずねました。「よく聞け。おごい教育とは、竹千代を今のうちに腰抜けにして、将来、武士としてたてないように、骨抜きにすることなのだ。」

こう、義元は家臣たちに教えたそうです。

という話を聞きました。

少子化の今日、ともすれば、私たちは、義元が言う「おごい教育」を我が子にしているのではないのでしょうか。親が「子どもべったり症」で甘やかすことばかりだったり、子どもが、人間として許してはならないような行為をしても「それは悪いことだ。」と注意せず、「まあまあ」で済ませたり、子どもが雨にぬれないように、雨が降り出すと、すぐ、車でお迎えをしてしまう。また、我が子が、公の場でさわいでいても、知らぬふり。等々。果たしてこれで、子どもたちは、これから60年、70年の人生を雄々しく生き抜く人間として育っていけるのでしょうか？

この話を知り、一人の親として自分のしつけを振り返りました。我が家が、「おごい教育」をしていないか。「甘茶が毒茶」になっていないか。

同時に、教師としても善悪の区別、物事の是非等、きちんと指導しているだろうか？大切なことを「まあまあ」で見過ごしていないか？と反省しました。

子どもの教育には「愛ある厳しさ、厳しさある愛。」が必要だと再認識する今日このごろです。

次に本校の教育目標です。「自ら主体的に考え、行動できるたくましい児童の育成」ポイントは、自分で考えて動くということと、たくましさということです。

社会に出て生活できるように基礎を育てていきたいと考えています。

そのためには、保護者の方との協力が不可欠です。

(めざす保護者像提示) 保護者の方には、この3つをぜひお願いします。

最後に、私たち教職員と保護者の方は、子どもたちを伸ばしていくという仲間です。

子どもたちの前での、学校批判や担任批判は子どもたちのためになりません。しないでください。何かお悩みや疑問があればいつでもご相談ください。